

梶研究会の紹介 (2027募集用)

● はじめまして♪ 以下は来年度ゼミ募集用に作成したものです。



←2024年9月上旬
沖縄県八重山諸島
ゼミ合宿↓ →



←2026年9月上旬

2025年9月上旬↓



●テーマは「**文化的景観とエコツーリズム**」です。

文化的景観とは「**自然と人間の共同作品**」といえるような、エコな暮らしぶりが表れた景観を評価する新しい考え方で、**見た目より中身**—伝統的な生業・生活文化の、自然との共生関係など—を重視します。この「文化的景観」という素材を、持続的な地域づくりに活かす手法の代表が**日本型の「エコツーリズム」**です。ゼミ生は各自が関心を持つフィールドや具体的テーマを選んで現地調査を行い、教室での個別発表を通じて成果を共有し合います。新参加者は、夏休みに催す**沖縄県八重山諸島ゼミ合宿**に、**3年次**に必ず参加してもらいます。



- ゼミ生の基礎教養となる授業は、梶裕史「**環境表象論Ⅰ・Ⅱ**」という授業です(ゼミ生必修)。文化的景観をテーマとし、日本型のエコツーリズム、「五感」、民間伝承のなかのエコロジカルな「無形文化」等の関連事項について考察します。今年度のシラバス(講義の概要と計画)を、下記URLクリックにより読むことができますので、興味のある方はご覧ください。

https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?nendo=2026&kodo_2=C2322&t_mode=pc

https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?nendo=2026&kodo_2=C2323&t_mode=pc

- 学部のコース制で関りが深いコースは、**人間文化コース** または **ローカルサスティナビリティコース**です。



- 新規参加者(主に2年生)は、**金曜5限のAゼミ**を履修し、3年次春学期には**金4の「人間環境演習」**(☞25年度までの入学者はBゼミ)も、夏合宿の予備学習用に履修してもらいます。
- 教員とゼミ生相互、そしてゼミ生同士の交流・親睦を深める機会として、ゼミ後の夜にほぼ毎週、安価な懇親会を再開しています♪(任意参加)



☞ 2025年夏合宿



☞ 2026年夏合宿

コロナ後に本格的に再開できた夏の約1週間強の沖縄離島合宿は、伝統行事の見学と手伝い、島の方々との交流会、サンゴ礁シュノーケリングなどの自然体験と、非常に濃い体験になります。自然に寄り添った伝統的な生活文化を今も守ろうとしている姿を肌身で実感でき、参加する学生の絆も一気に深まります(*^^)v



島で親しい方が、地元の新聞の通信員をしていた関係で、合宿のことをささやかな記事にしてくれました。今まで、竹富島で最も大きな秋の祭りに、雑用役として手伝いに行き、貢献する学生もいました。

法政大学生が 八重山合宿

島民と交流、白保朝市体験も

法政大学人間環境学部 梶谷史哉の学生9人がこのほど「自然と密接にかかわる伝統文化を大切にする意義を知る」をテーマに、石垣島白保と竹富島で5泊6日の合宿をした。

当初、今年3月に実施する計画だったがコロナ感染拡大で延期、9月に予定変更するも今度は台風で再び断念、今回ようやく実現した。白保では地域住民と一緒に日曜朝市の準備や販売を手伝ったり、シュノーケル

シヨは2年に1度の開催。今年は13日までで約40カ国・地域から740社以上が参加。20年は新型コロナウイルスの影響で21年に延期した。習近平（しゅう・きんぺい）国家主席は今年10月の共産党大会で、台湾統一を目標に掲げ「武力行使の放棄は約束しない」と明言している。

体験をした。竹富島では水牛車に乗ったり島内散策をした。

ゼミ生らは全員3年生で、1年生の時ほとんどがオンライン授業になるなど大学生活はコロナの影響を一番大きく受けた学年。そのため民泊に泊まりながら島民と交流する旅は新鮮で、畑から野菜を採ってきて料理する姿に驚いていた。

豊原嘉人さんは「これまで授業で学んできた人間と自然の関わりが、ここから大きく変わった。梶教授は「入学してからずっとオンライン授業だったが、限界があった。授業で聞くと、実際に島の方と向き合って話を聞くのは全く違う」と話し、島民とリアルな交流ができたことに感謝した。（隅田賢通信員）

日曜朝市でスタッフとして手伝う法政大学生たち—6日、白保（提供写真）

『八重山日報』2022・11月
⇐ ↓2016・11月

種子取祭で座待を体験

法政大の金子大介さん

「うつくみの心見た」

種子取祭（たねとりまつり）は、八重山県石垣市白保町で行われる伝統的な祭りで、毎年11月に行われます。この祭りは、島の歴史と文化を伝える重要な行事で、多くの観光客が参加します。

法政大学の金子大介さんは、この祭りに参加し、座待（ざまち）という伝統的な座り方を体験しました。金子さんは、この体験を通じて、島の文化と歴史を深く理解し、島の発展に貢献したいという決意を固めました。

金子さんは、この体験を通じて、島の文化と歴史を深く理解し、島の発展に貢献したいという決意を固めました。

八重山日報 広告募集



費用は約12万かかりますが(^-、一生の思い出になる貴重な日々です。3年次の学年末は、主にこの合宿の成果を論文にまとめ、2年次は、講義「環境表象論ⅠⅡ」や先輩の研究発表から学んだ刺激で、自ら1人旅またはグループによるフィールドワークを企画・実施し、論文を書きます(4年次も個人研究)。



～ゼミ生より～ 個人研究テーマは多彩 ♪



総合テーマに関わる具体的テーマは、とても幅広くて、**自分の研究とつながりを見つけた意識で、ゼミ仲間の発表を聴くと、先生がよく使う表現で“有機的に視野が広がっていく手応え”**があります。前年度の学年末論文をベースに、最近発表されたテーマを、ざっと分類してみると次の通りです。

- ▶ まちなみ保全をささえる「無形」要素(住民に共有されるセンス・オブ・プレイスなど)
- ▶ 地域文化の核である地域のことば(＝方言)や、方言で歌われる民謡の果たす役割
- ▶ 共生の生活文化を活かした自然保護(「五感」を活かした生業・生活の技、生きる知恵、自然への信仰心、またそれらをベースにした新たな取り組みなど)
- ▶ 日本人の「旅」の文化と自然環境との関わり(海・山に関わる信仰、樹木、動物、温泉 etc.)
- ▶ その場所に関わる文学・芸術作品、伝説・昔話、映像作品等(＝目に見えない無形文化)を活かしたエコな地域づくり:フィルムツーリズム、アニメツーリズム、アートによる地域づくり など
- ▶ 伝統的な食文化関連(キーワード例:スローフード、6次産品、グリーンツーリズムなど)
- ▶ 感覚環境のまちづくりと人間形成(灯りと闇、「音風景」「かおり風景」など)



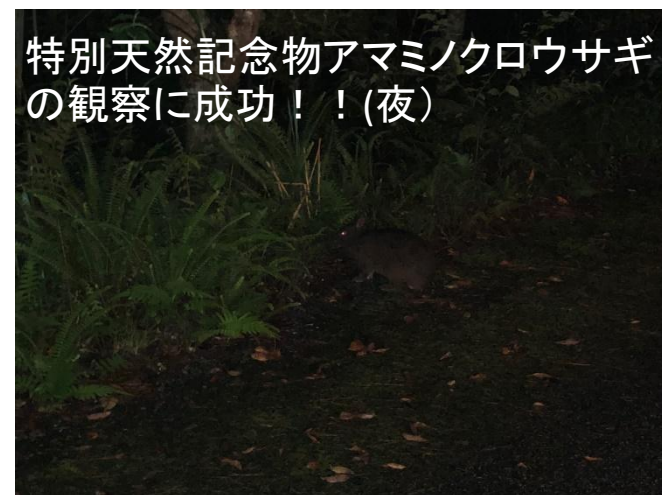
●梶先生はよく「バラバラの知識では無意味。(いろいろ学んだことが)自分のなかで一つにつながることが、この学部ならではの収穫であり、生きた“教養”だ」と言います。ゼミ生一人一人の研究は、先生の「好きこそものの上手なれ！」の勧めによって、それぞれの持ち味を活かして行われます。いいかえると、このゼミは個性派集団で、各自が総合テーマに沿って好きなことを個人研究するのですが、それでいて底には共通性がある面白さがあります。(4年生)

自主的な「一人旅」の意義

●学部にはフィールドスタディという現地実習授業があり、梶先生も参加を勧めていますが、そのFSで先生方が組むしっかりしたプログラムには遠く及ばないとしても、**現地でのヒアリングが必修とされる「一人旅」(グループ訪問も可)を企画して実行してみる体験**は大変貴重です♪ 自分で現地の活動団体に(初対面で)連絡したりするのが正直、億劫だったり(笑)、勇気が必要だったりで、下手で効率はよくないですが、すべて自分で組み立てるわけですから。個人で訪ねると、若者は現地で歓迎されるというか、とても親切にしてもらえることも多いです☆ (4年生)



2019年9月 3年生(当時)は奄美大島自主合宿を実施☆



特別天然記念物アマミノクロウサギの観察に成功!! (夜)



倉クロマグロの養殖生け簀でシュノーケリング

中学・高校と6年間奄美大島に住んでいたゼミ生のコネクションで、2年生の夏に梶が催した八重山合宿になって、3年生14名は奄美で合宿を行いました♪ のちに世界自然遺産に登録された貴重な自然や、自然に寄り添う島の生活文化の一端を体験することが出来ました。



ふだんは、勉強態度についてよく説教しましたが(笑)、この自主合宿については、教員の引率なしでよくぞこれだけ充実した合宿を実施した、と手前味噌ですが褒められる内容でした(*^^)v

個人研究は、「一人旅」が多いのですが、このような二人以上のグループ研究もOKです♪



身近にも個人研究の素材はたくさん！

●ここまで説明を読まれた方は、ゼミ行事としての合宿や、フィールド調査型の個人またはグループ研究が、学年末ゼミ論文を書くのに非常に重要、という印象を持たれたことと思います。

・・・ただし、このゼミと密接な関係がある「環境表象論ⅠⅡ」の内容は、遠くに泊りがけで出かけないと学べない、というものではありません。

身近にも「文化的景観」にあてはまる素材や、関連する事柄は豊富にあります★
「環境表象論ⅠⅡ」から、個人研究のヒントを数多く見出すことができます。具体的には、webclassにサンプルとしてあげた「環境表象論」のオンデマンド教材を読んで、実感してほしいと思います。

たとえば毎年沖縄の離島でゼミ合宿をやるのも、「沖縄の離島研究のため」が最終目標ではありません。島での実体験の収穫を、身近な日常生活に何らかの形でフィードバックするのが目的である、といえます。沖縄の島で学んで欲しいのは、「エコな(≒持続可能な)ライフスタイル&そのもとになる価値観・幸福感」であり、学べたことを少しでも自分の日常のライフスタイルに採り入れる、というのがその「フィードバック」にあたります。

言い換えると、「エコなライフスタイル、それにかかわる価値観・幸福感」の素材は、たとえば都会暮らしのなかでも、あるいはほんの少し日帰りで郊外などに出かけるだけでも、スライド7にあげた項目の具体例がたくさんあるのです♪

宿泊現地訪問型

- 👤 ワインツーリズムから考える日本産ワインの可能性ー山梨県勝沼などを事例にー
(日帰りも含む)
- 👤 高原避暑地から学ぶESDー軽井沢・星野リゾートのエコツーリズムの取り組みとまちづくり<キャリアチャレンジ参加>
- 👤 ツーリズムと持続可能な地域づくりー熊本県人吉球磨地域〈2度訪問〉
- 👤 百人一首の舞台ー和歌に詠まれた京都の「景観」ー
- 👤 千葉県佐原の伝統継承と観光まちづくり<キャリアチャレンジ参加>
- 👤 神津島のエコツーリズム資源ー神話と星空の島ー
- 👤 新潟県村上市に生きる人々ー鮭文化など固有の伝統文化、行事を通じて

地方の実家帰省時の調査型(祖父母宅も含む)

- 👤 ディープな街・沖縄KOZAー「観光地」ではない商店街の、ウチナンチューのためのまちづくり沖縄本島・コザの商店街のまちづくり、活性化
- 👤 大分県臼杵市の文化資産ー食文化を中心に
- 👤 木曽谷の観光業の現状と課題ー木曽福島の宿場町、御嶽山などー

距離にもよりますが、近ければ何度も足を運ぶことが必須です♪ 現地訪問時期は、宿泊型は1回の場合最低2～3泊以上（再訪できるとなおベター）。現地訪問は、夏休みに限らず秋でも可、としています。

2人やグループでも良いのですが、現4年生の2年次は、初めての「一人旅」にチャレンジする女子も多く(^_^)v、また学部の「キャリアチャレンジ」参加をコアとして濃い体験をし、その後自分でもプラスアルファの再訪を計画したという例もあります



(例)2025年度2年生の個人研究テーマ

宿泊現地訪問型

- 👤 風景と暮らし一軒の浦における地域風景と住民主体の観光〈瀬戸内海、広島県〉
- 👤 直島におけるアートツーリズムと地域生活の共存構造〈瀬戸内海、香川県〉
- 👤 椿による地域活性化—五島列島で生きる人々にとっての椿とは—〈福江島、長崎県〉
- 👤 気仙沼への移住意思決定—映画「サンセット・サンライズ」からわかる気仙沼への移住について—〈宮城県〉
- 👤 住民と来訪者が望む気仙沼—気仙沼に集う人々が描く地域の形—〈初訪問は“ふるさとワーキングホリデー”⇒以後1か月のインターンシップも含む4度のリピート〉
- 👤 信仰都市・日光の文化資源の意味変容と持続可能性 〈日帰りも含むリピート〉
- 👤 『君の名は。』の聖地巡礼が地域にもたらした変化— 岐阜県飛騨市古川におけるアニメツーリズムの実態と課題 —
- 👤 『最後の清流』四万十川にみる自然環境保全と地域社会の共存— 観光・産業・環境保全のバランスに着目して —〈高知県〉
- 👤 伊香保温泉街の課題と可能性—県内の他温泉街との比較を交えて—〈群馬県〉

地方の実家帰省時の調査型(祖父母宅も含む)

- 👤 持続可能な観光とまちづくり～“オリーブの島”江田島の可能性～〈広島県〉

日帰り複数回訪問型1313

- 👤 忍野八海における外国人観光客の増加の背景と地域への影響〈山梨県〉

🌸 近年、（2年次か3年次に休学して渡航したり、4年生が秋学期に短期で出かけたりと、）“（自主）留学”も一つのトレンドといえる傾向で(*^^)v、滞在中の体験をもとにゼミのテーマに沿って論文を書くことも可能です。また、地方の持続可能な地域形成を手伝う、交流型の“ふるさとワーキングホリデー”に参加する学生もいます。

ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○ゼミの長所と思うことは、

- ・ 梶先生と学生の距離が近いので和やかな雰囲気楽しく授業が受けられること。
- ・ 学生の発言から先生が話を広げてくれることが面白い。梶先生の豊富な知識や経験の話を聞くことが楽しい。
- ・ 学生は十人十色。誰にでも話しかける人がいたり、恋人大好きな人がいたり、アニメ好きがいたり、キラキラネームの子、ダンス上手な子、ディズニーオタクな人……等々。
- ・ 海が好きな人や皆で楽しく過ごすことが好きな人には好適と思います。(4年女子)

○梶ゼミは梶先生を筆頭にとっても他のゼミに比べて明るい雰囲気、いい意味でゼミらしくないゼミです。先生は「多様性」を大切にしており、研究のテーマの自由度が高く、とても多種多様なことをゼミ生同士で多く学べるゼミです！(4年女子)

○梶ゼミは、先生や先輩後輩の垣根が低く親しみやすい所が良い所です。また、ゼミ合宿では、普段では経験できない素敵な経験もできます。(4年女子)

○このゼミでは、ゼミのテーマに逸れていなければ、自分で選んだ題材で、共同でも個人でも研究を進めていける点が面白いと思います。(4年男子)

○このゼミでは、現地調査を通して本当に貴重な経験ができると思います。机の上だけでは治らず、現地の人々の人生に触れる機会が多いことも大きな魅力の1つです。必ず入って良かったと思えます！(4年男子)

○先生から学生まで多彩で個性的なキャラが多いにも関わらず、フランクで話しやすい雰囲気を持っているため馴染みやすいと思います！また、五感で学べることも多いため、興味関心が刺激されること間違いなしです！
(4年男子)



ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

- サークルのように仲が良く、卒業してからも一生の友達ができると思います。特にゼミ合宿は親睦を深める一大イベントです！ 梶先生も、茶目っ気が豊かでとてもフレンドリーで親しみやすいです！（4年男子）
- 梶ゼミでの学びの特長は楽しみながら勉強するという点だと思います！合宿では個性豊かな仲間と一緒に体験しながら学び、自分自身の価値観にも良い変化をもたらしていると思います！（4年女子）
- ゼミ合宿では沖縄の白保・竹富島に行き、他のゼミでは得られない貴重な体験ができると思います。親しみやすくてみんな個性豊かなので、とても楽しいゼミです！（4年女子）
- 生徒同士だけでなく梶先生とも近い距離感で話をすることができるため、和気藹々とした雰囲気の中で授業をすることができます。また、自分がやりたいと思った研究にも、積極的に取り組める環境です。（4年女子）
- 沖縄についての学習が多いですが、先生が現地に行った時に撮った写真がとても多く、それをみながら学習できるため、雰囲気を感じながら学習できます。（3年男子）



ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○梶ゼミには学部の中でも「うるさい」人達が集まってる気がします(良い意味で 笑)。すなわち明るい人達が多く、ゼミ、ゼミ以外関係なく、学校生活が充実する友達を見つけることができます。(3年男子)

○ゼミに参加して良かったと思う点は、ゼミの雰囲気がとても温かいところです。優しい人が多くて、分からないことや心配なことを相談できる仲間や先輩の存在が本当にありがたいです！(3年男子)

○このゼミは研究対象の幅広く、発表で様々なテーマの研究を聞くことができ非常に面白いです。そして、何よりゼミ生同士仲がよく、明るく楽しくゼミに取り組めます。(3年女子)

○梶ゼミでは、出身が地方など色々なバックグラウンドを持っていたり、様々なことに興味関心があるなど個性的なゼミ生が多いため、研究内容が多様であること、そして自分自身の価値観や視野を広げることができる点が特長だと思います。また、他のゼミと比べて、学年ごとの縦の距離感がとても近く、休日に一緒に出かけるくらい仲がいいことも最大の魅力です。(3年女子)

○梶先生が優しく気さくな方なので、ゼミの雰囲気も和気藹々としていて楽しいです。個人研究は、各々が興味を持ったことに取り組めるので色々なテーマで研究している人がおり、勉強になります！(3年女子)



○島の伝統・文化・歴史・生きる姿勢など全く都会とは違うもの、色々なバックグラウンドを持った同期・先輩と仲良く学ぶことができます！(3年女子)

ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○私がこのゼミに参加して良かったと思う点は、自分の学びたいことを幅広い選択肢の中から選ぶことができる点、また、人との関わりを大切にしている人が多く、どの学年も雰囲気の良い点です。（3年女子）

○梶ゼミは個性豊かな面々が揃う楽しいゼミです。また、他の勉強やアルバイト、サークルとも両立しながら参加しているゼミ生が多いです。楽しく刺激的なゼミ生活を送りたいという方は是非梶ゼミを選んでください！（3年女子）

○授業中にグループワークで話し合うことも多く、同期・先輩・後輩関係なく親睦を深めることができる点が数多くあるこのゼミの特長の一つであり、入って良かったと感じる点です！梶ゼミに入って、学びも友好関係も充実させましょう～！^^（3年女子）

○梶先生や梶ゼミ生はフランクで話しやすい雰囲気を持っている人が多いので馴染みやすいのではないかと思います。堅苦しさがなく色々なキャラクターの人がいるので面白いです。（2年男子）

○梶ゼミに入ったことで旅の楽しみ方が変わり、ただ有名な観光地を巡ったりインスタ映えな写真を撮るだけではなく、旅先での過ごし方やそこで出会った人たちとの交流を大切にし、より旅先の地域について自分の五感を使って深く知ろうと思えるようになりました。（2年男子）



ゼミ生の声2(このゼミの特長と思うこと)

○このゼミの長所は、ゼミの学問分野内であれば、自由に好きなことを学ぶことが出来る所です。先生もゼミ生の主体性を尊重してくれるので、民俗学や環境文化などに興味があれば学を深めることが出来ると思います。(2年男子)

○このゼミに入って良かったことは研究対象が幅広いことです。ツーリズムやアミニズムの視点は日本全国に通ずるもので有り自分の興味のある分野を探すことができます。(2年男子)

○このゼミの魅力は、いつも明るい雰囲気なところだと思います！研究テーマも幅広く設定できるので、本当に自分の興味があることを楽しく勉強できます！(2年女子)

○梶ゼミでは自分の興味のある分野ももちろん、興味がさらに広がるような発表も多く、すごく自分のためになることが多いです。是非入ゼミしてください！(2年女子)

○自分が関心のあるテーマに対して、自由度高く取り組むことができます。また、ゼミの雰囲気も堅苦しくないなので、気負わずに参加することができるのではないのでしょうか。(2年男子)



以上、簡単ですが梶研究会についての紹介を読んで下さり、ありがとうございました！¹⁸